

流通経済大学、2年連続3回目の優勝で閉幕



PHOTO:Reiko Iijima

Match Review Result & Report

Reported by 滝口憲洋 (読売新聞運動部)

2014年8月17日(日) 18:00キックオフ
会場/キンチョウ スタジアム 天候/曇 入場者数/5652人

法政大学	1	0-1	2	流通経済大学
		1-1		

61分 高橋健哉(相馬将夏)	得点 (アシスト)	14分 森保圭悟(藤翔伍)	79分 渡辺直輝(鈴木翔登)
----------------	--------------	---------------	----------------



一瞬だけ生まれる隙を見抜いていた。同点の79分、流通経済大はセンターラインやや前からのスローインで、DF4、鈴木翔登(4年)が相手DFの裏にロングスローを放り込んだ。合わせて抜け出したFW16、渡辺直輝(3年)は、飛び出したGKを冷静に見て頭上を越えるルーブシュート。「相手がスローインでDFラインを上げるので、狙っていた」という渡辺の、値千金の決勝ゴールだった。

序盤から一進一退の攻防が続いた。流通経済大が14分、MF7、森保圭悟(3年)のゴールで先制するも、法政大は61分、途中出場のFW10、高橋健哉(4年)が決めて追いついた。法政大は勢いついて攻めに出たが、そこで流通経済大は慌てない。選手同士が話し合い、守備を修正。「今がまとまる時だ」と声を掛け合って崩れず、訪れた好機を逃さなかった。

流通経済大は、練習から「勝つために必要なのは何か」を意識しているという。酷暑の今大会、体力を温存するカウンター攻撃を織り交ぜて勝ち上がった。この試合でも、果敢にプレスをかけたかと思えば、時に両サイドのMFが下がってDFラインに6人が並び、最後はしっかり逃げ切った。主将の鈴木が「時間や点差、相手の心理まで考えてプレーできている」と話すように、ピッチの選手が的確に判断し、柔軟に戦った。

そこには前回大会の教訓が確かに息づいている。史上4校目の連覇を成し遂げた選手たちに、中野雄二監督は「指示を出さなくても、選手が勝ち方を知っている」と顔をほころばせた。そのしたたかさは、王者と呼ぶにふさわしいものだった。

一方の法政大は、今大会で強豪を次々と破り、旋風を巻き起こした。決勝も、シュート数は相手を2本上回る9本。長山一也監督は「内容では上回れた部分もあった」と振り返った。試合後、選手はピッチにがっかりと膝をついて涙を流したが、この経験を生かす機会はずっとある。下を向く必要は、全くない。

